

# ACTIVITY REPORT 2018



## ユネスコ活動レポート 2018



ロゴマークを構成しているのは、たくさんの「希望の手形」。  
ここには、1人ひとりのご支援を、手から手へ、大切に伝えていく。  
そんな想いが込められています。

## ハガキ約100万枚分の“思い”集まる 書きそんじハガキ・キャンペーン2018

ユネスコ世界寺子屋運動を支える大きな力となっている書きそんじハガキ・キャンペーン。2018（2017年12月～2018年11月）には、4547万7821円分の寄付に相当する「書きそんじハガキ」、未使用切手および金券などが日本全国から集まりました。キャンペーン開始以来28年間に集められた累計回収枚数は、1305万枚に上ります。

皆さまからのご協力によって、これまでに532軒の寺子屋が完成し、131万人が寺子屋で学ぶことができました。



アフガニスタンの寺子屋で識字クラス修了証書を手に



キャンペーン詳細URL  
<https://www.unesco.or.jp/terakoya/kakisonji2019>

## 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

「ユネスコ世界寺子屋運動」を題材に、ESD（持続可能な開発のための教育）の一環として、またアクティブ・ラーニングの普及をはかることを目指すのが、国際理解教育「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」。世界の識字問題や教育の重要性を学んだ子どもたちが、デジタル機器を用いて、書きそんじハガキ回収を呼びかけるリーフレットづくりに取り組みました。2018年度の「リーフレット・コンテスト」には全国19校、約1700人の児童生徒が参加。制作だけでなく、実際にリーフレットを活用して書きそんじハガキ回収活動を行いました。



2018年度最優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」受賞  
神奈川県立有馬高等学校1年(当時)市川颶太さんの作品

プロジェクト詳細URL <https://www.unesco.or.jp/teacher/terakoya-leaflet-production-project/>

## ごあいさつ

日頃より私どもの活動に温かいご理解とご支援をお寄せいただき、心より御礼申し上げます。皆さまのご協力のおかげで、2018年度も日本そして海外において多彩な活動を展開し、数多くの成果を生み出すことができました。皆さまのお力添えで実現できた活動について、感謝の気持ちとともにご報告させていただきます。

世界はいま、貧困、人権の侵害、宗教的不寛容、紛争の拡大、地球温暖化など、さまざまな課題に直面しています。また、日本国内においても、少子高齢化、格差の拡大、地域の過疎化の進行など多様な課題を抱えています。私たち日本ユネスコ協会連盟は、こうした課題や時代の先を見据えながら、「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」をビジョンに、「平和な世界の構築」と「持続可能な社会の推進」をミッションに掲げ、さまざまな活動を展開しています。

2019年、貧困のサイクルを断ち切り、基本的人権である教育を通して自立を目指す独自の活動「ユネスコ世界寺子屋運動」が30周年を迎えます。民族、宗教、国籍、年齢、性別などあらゆる違いにとらわれず、誰もが教育を受けられる世界を実現することが平和の礎となります。

2030年までに世界を変えるSDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)の担い手として、私たちはこれからも「教育を通じた平和な世界への貢献」を目指し、「誰一人置き去りにしない」社会づくりのための活動を続けてまいります。

どうぞ今後ともお力添え賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年7月  
公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

会長 佐藤 美樹



## もくじ

● 書きそんじハガキ・キャンペーン …… 01

● SDGsとユネスコ活動 …… 03

### 海外

● 世界寺子屋運動 …… 05

カンボジア …… 07

アフガニスタン …… 09

ネパール …… 11

ミャンマー …… 13

現地の声 …… 14

● 世界遺産活動 …… 15

### 国内

● 未来遺産運動 …… 17

● 自然災害発生後の教育支援 …… 21

● 減災教育 …… 23

● SDGs達成に向けた次世代育成 …… 25

● 民間ユネスコ運動の取り組み …… 29

● 構成団体会員 …… 31

● 維持会員企業・団体／賛助団体会員 …… 32

● 企業・団体との連携 …… 33

● サポーターの声 …… 35

● 会計報告 …… 37

● ユネスコ活動への参加・協力方法 …… 38

# 誰一人取り残さない、 平和で持続可能な社会づくりを通じて、 SDGs達成に貢献します

## 持続可能な社会づくりを目指して

世界には、識字、文化的多様性、環境保全、生物多様性、防災・減災、地域活性化など、持続可能な開発のための教育(ESD:Education for Sustainable Development)がテーマとする社会課題が山積しています。

第二次世界大戦がもたらした多くの犠牲と苦しみ。その経験と歴史から学び、人類が二度と戦争を繰り返さないようにするためにUNESCO(国際連合教育科学文化機関)は創設されました。その理念に賛同した人たちにより、戦後すぐに民間ユネスコ運動が始まり、1948年、日本初のNGOのひとつとして日本ユネスコ協会連盟が生まれました。

私たちは、支援してくださるさまざまな方々とのパートナーシップを通じて、国連の提唱する持続可能な開発目標=SDGs(Sustainable Development Goals)の達成に寄与すべく活動を続けています。

一時的な支援ではなく、地域や人に寄り添いながら、とくにSDGsの目標4を重点ゴールとして捉え、教育を通じたSDGsの推進=平和な世界への貢献を目指しています。

大切な命が戦争や災害で失われないために。すべての人が教育を受けられる世界を叶えるために。

誇れる文化や美しい自然が未来の子どもたちに引き継がれるように。

全国の企業・団体、ユネスコ協会・クラブ、そしてたくさんの皆さまの参加とご協力を得ながら、

2018年度に私たちが取り組んだ活動についてご報告します。

### SDGs達成に向けた 次世代育成



活動報告  
P25

未来の担い手が  
ここから生まれる



### 世界遺産活動



知識と誇りを次の世代へ



### 世界寺子屋運動



活動報告  
P5

教育が、  
夢や未来を描く力に



## 教育 支援 自然・ 文化 繙承 連携・広がり



4 質の高い教育を  
みんなに

### 自然災害発生後の 教育支援



活動報告  
P21

どんな状況においても  
子どもたちが  
学び続けられるように



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

## SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)

貧困や飢餓、教育、ジェンダー、保健、環境、防災、エネルギー、経済、気候変動などの世界が掲げる課題に対して、先進国、途上国がともに協力しながら、2030年までに達成すべき具体的な世界を変える17の目標と169のターゲットが掲げられています。それぞれの目標の達成には、各国の政府だけでなく、企業やNGOなどの民間組織や市民社会、そして世界中の人たちが一体となって取り組む必要があり、私たち日本ユネスコ協会連盟もSDGsの担い手として、**目標4**を重点ゴールに据え、「**教育**を通じたESDの推進=平和な世界への貢献」を目指して活動しています。

### 目標4 ..... 質の高い教育をみんなに

すべての人へ公平で質の高い教育と、  
生涯学習の機会を提供する。



未来遺産運動

活動報告  
P17

日本の大切な自然や文化を  
100年後の子どもたちへ



### 民間ユネスコ運動



活動報告  
P29

地域から平和な社会を  
築くために



### 減災教育



災害を生き抜き、  
未来を育む学びの支援  
活動報告  
P23



## 世界寺子屋運動

教育が、夢や未来を描く力に。

# 教育が夢や未来を描く力に

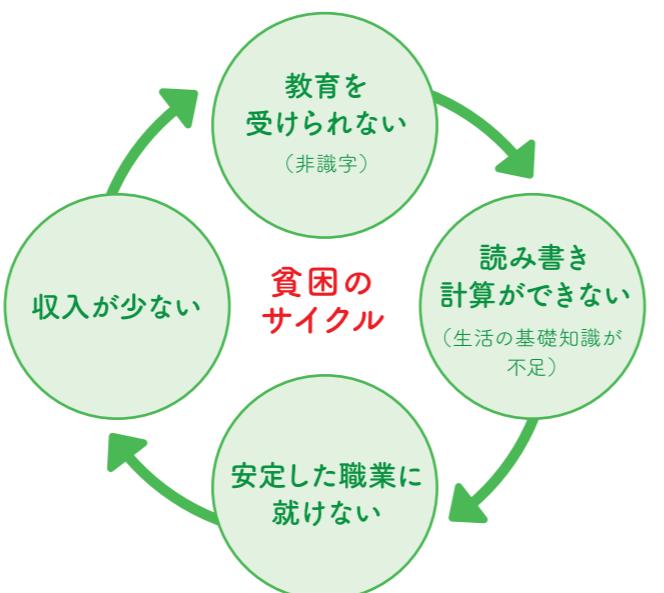
## すべての人に教育を

誰もが平和な社会構築に貢献し得る一員になれるようにと、1990年に国連が制定した「国際識字年」に先駆けて、その目標に賛同した全国の市民たちと1989年に始めた「ユネスコ世界寺子屋運動」。

“Education For All.” 私たちは、年齢や国籍、宗教、性別を問わずすべての人びとが、基本的人権として、生活に必要な文字の読み書きや計算能力=識字を身に付ける世界を目指しています。

## 貧困のサイクルを断ち切り、自立を目指す

「識字教育」を中心とした人材育成のために寺子屋(CLC=Community Learning Center)を建設し、公教育を受けられない子どもたちへの教育機会の提供や、大人への識字教育や職業訓練、生活向上のためのさまざまなプログラムを実施しています。さらに支援先の地域が日本ユネスコ協会連盟の支援から自立する仕組みをつくりています。



## 世界寺子屋運動の多様な役割



## 現地事務所・実施パートナーから

### 日本ユネスコ協会連盟 カンボジア事務所

募金者の皆さん、“ユネスコファミリー”的皆さまとともに、2018年度も教育を通じて1330人の非識字や貧困の解決に取り組めたことに心から感謝しております。皆さまにとっても新年度が素晴らしいものとなるよう祈っております。



カンボジア ▶▶ P07

### 日本ユネスコ協会連盟 アフガニスタン事務所

アフガニスタンの治安状況は依然として厳しいです。しかし、そのような状況の中でも、人びとに教育の機会を届けるという目標のために、アフガニスタン事務所は活動を続けています。皆さまのご支援に感謝いたします。



アフガニスタン ▶▶ P09

### ネパール ノンフォーマル教育リソースセンター

2018年度は、寺子屋の中級識字クラスで2387人の女性が学ぶことができました。また、小学校クラスの卒業生は266人、幼稚園クラスでは40人が学ぶことができました。2002年からこれまで日本の皆さまにご支援いただき、ありがとうございます。



ネパール ▶▶ P11

### ミャンマー 識字リソースセンター

皆さまのご支援により、経済的理由で学校を中途退学した青少年480人に、継続教育プログラムを実施することができました。とりわけ2018年度は、日本から多くの方々が訪問してください、文化紹介や励ましをいただいたことに感謝しています。



ミャンマー ▶▶ P13



SDGs  
主な対応目標

## ■ 29年間の活動成果(1989~2018年12月現在)



世界44ヵ国1地域で  
532の寺子屋を建設し、  
131万人以上に  
学びの機会を届けてきました。

## これまでに支援した44ヵ国1地域

地域	国 数
アジア・太平洋	18
中東	2(含むガザ地区)
アフリカ	17
中南米	8
合計	44ヵ国1地域



## ■ 15歳以上の6人に1人が読み書きできないという現状

世界にはいまだ約7億5000万人の非識字者が存在し、約1億2400万人のこども(6歳~14歳)が教育を受けられない状況が続いています。

UNESCOの理念に賛同し、民間で活動する私たちが目指す平和で持続可能な社会づくりには、世界中の人たちの知的・精神的連帯が欠かせません。

文字を識ることから平和への第一歩を踏み出すために。

私たちはこれからも皆さまともに活動を続けてまいります。(出典:UNESCO UIS Fact Sheet No.48)

## 世界寺子屋運動へのご支援のご案内

2019年度は下記4ヵ国で世界寺子屋運動を展開します。年間10万円以上のご寄付で、支援先の国を指定することができます。詳しくは事務局・事業部までお問い合わせください。

お問い合わせ / TEL : 03-5424-1121 URL : [www.unesco.or.jp/activities/terakoya/](http://www.unesco.or.jp/activities/terakoya/)

2019年度支援国 : カンボジア・アフガニスタン・ネパール・ミャンマー



## 基礎教育・収入向上活動・人材育成の 3本柱による支援で寺子屋の自立が実現

幼稚園クラスでも、研修を受けた寺子屋運営委員が子どもたちを指導

### カンボジア（シェムリアップ州17地域）

近年の目覚ましい経済成長の一方で、その恩恵が受けられない農村部を対象に、  
識字などの「基礎教育」、職業訓練などの「収入向上活動」、  
将来の自立運営を前提とした「人材育成」の3つを柱に、さまざまな学びを提供しています。



#### 2018年度事業成果

- 識字クラス：20クラス／515人 ■ 幼稚園クラス：10クラス／239人
- 復学支援小学校クラス：10クラス／189人 ■ 進学支援プログラム（寺子屋卒業生対象）：198人
- 小口融資：100家族 ■ 米銀行（米の貸付）：110家族 ■ 養牛：12家族
- 寺子屋運営委員および州・郡教育局ノンフォーマル教育担当官向け研修：4回のべ180人



## 4軒目の寺子屋が 私たちの支援から卒業 村人の手による自立運営に

- 2006～2008年に設立されたチョンクニア、コックスロック、プレイクロッヂの3軒の寺子屋に続き、2009年から活動するセンソック・リヤンセイ寺子屋が「識字率の10%以上の改善」「収入向上活動による一定の自主財源」「寺子屋運営委員会の組織力」などの基準を満たし、新たに自立運営に移行する見通しとなりました。所在地のシェムリアップ州クロライン郡センソック・コミューンは市街地から車で片道1時間以上離れ、経済的に困難な地域でした。しかし、10年でさまざまな基礎教育・収入向上活動・人材育成研修を積み重ね、村の生活向上に取り組んできました。
- 識字・識字後クラスに700人が参加し、推定識字率は69.5%から82.4%に改善。住民ボランティアからなる寺子屋運営委員会も、リーダー研修やこれまでの経験から、自ら行政などへノンフォーマル（学校外）教育事業の協力を働きかけるまでになりました。
- 2019年は、政府の予算と寺子屋運営委員会の学習者対応により識字・幼稚園・復学支援クラスが予定され、寺子屋の自主予算で図書館や収入向上活動を継続します。



自立運営の見通しが立ったセンソック・リヤンセイ寺子屋



寺子屋運営委員とクロライン郡教育局担当官

## 寺子屋から 43人の高校入学者が誕生

寺子屋の「復学支援クラス」卒業生を対象に、2015年に始まった「進学支援プログラム」。このプログラムで、学用品や制服の支給を受けて中学校に進学した子どもたちの中から、高校進学を果たした生徒が誕生しました。まだカンボジアの高校進学率（25%・教育省2016/17）を下回る17%ですが、一人でも多くの子どもたちが中学校を卒業できるよう、個別相談など、学び続けるための環境づくりに取り組んでいます。



高校に進学した“寺子屋卒業生”（センソック・リヤンセイ寺子屋）

## 世界寺子屋運動



### 性差別やカースト制度により 教育の機会を奪われた人びとに識字を

寺子屋がない地域では、夜間に民家で小学校クラスを開講(ルンビニ)



### ネパール(カトマンズ、ルンビニ)

ネパールは地理的な要因でインフラ設備や輸送などに課題が多く、経済発展にも地域格差が見られます。

また、2015年4月に発生した大地震では大きな被害を受けました。

社会に根深く残るカースト制度の影響により、現在もネパールの成人識字率(15歳以上)は60%と低く、女性であることが理由で幼少期から教育の機会を逃した人が多いため、とくに女性の識字率向上を目指しています。

#### 2018年度事業成果

- |                |                |                         |
|----------------|----------------|-------------------------|
| ■ 識字クラス: 2385人 | ■ 小学校クラス: 266人 | ■ 成人女性初等教育クラス: 50人      |
| ■ 幼稚園クラス: 40人  | ■ 研修: 277人     | ■ 寺子屋建設: 1軒 (さらに建設中が1軒) |



SDGs  
主な対応目標

### 大幅な識字率向上を目指す

- ネパール寺子屋プロジェクトでは、ルンビニの12地域で、2019年7月までに大幅な識字率向上を目指しています。そのため2018年度は、4ヵ月間の中級識字クラスを前年より大規模に展開し、卒業生は2385人に上ります。クラスは、ルンビニを中心にカトマンズや地震被害で寺子屋を再建した地域でも開講しました。
- 2014年から2018年までの「5ヵ年計画」を通して、識字クラス(3ヵ月)と中級識字クラス(4ヵ月)で学んだ人はルンビニとカトマンズ地域で1万7605人。地震で被害を受けた地域でのクラスを含めると1万8847人が学び、当初目標の80%を達成しました。

### 小学校クラス、 大人のための初等教育クラスも

中途退学児童や未就学児を対象とした小学校クラスも、寺子屋の建物やマドラサ(イスラム教の学校)で継続的に行われ、14クラスで266人が学びました。卒業後には、大部分の生徒が中学校または小学校の高学年に編入しています。また、3歳から5歳の子ども40人が、基本的なネパール語や英単語を学習し、歌やダンスなどを楽しんでいます。

カトマンズにある寺子屋では、大人のための初等教育クラスを開講。識字能力を身につけた上で、さらに学びたい人びとが熱心に算数や英語を学んでいます。



子ども連れで熱心に文字を学ぶ女性たち(ルンビニ)



マドラサで行われている小学校クラス(ルンビニ)



地震で損壊した後、完成したラメシュ寺子屋(ラスワ郡)



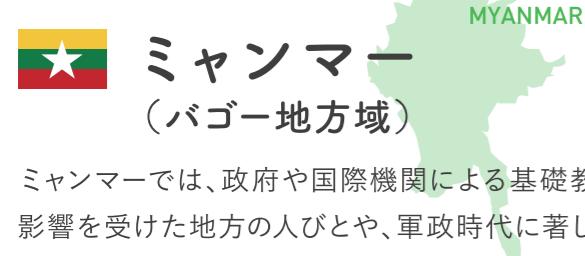
### 一杯のスプーン

ネパールでは、ネパール南部にある世界遺産「ルンビニ」の12地域で、現地の国際仏教協会の診療所とともに活動しています。ルンビニの12地域では、体重や腕の太さを測定し、栄養失調とされた子どもたちに栄養補助食品を提供。4ヵ月間の活動で、延べ4358人がカルシウムなどの入った栄養補助食品を受け取りました。

栄養補助食品を抱える子ども



# 働く青少年に欠かせない 基礎教育と生活スキルを提供



## ミャンマー (バゴー地方域)

ミャンマーでは、政府や国際機関による基礎教育の拡充・改善への努力が続いている。その一方で、内戦の影響を受けた地方の人びとや、軍政時代に著しく経済が停滞して生み出された多くの貧困層には、教育の機会が十分とはいえない。生活のため義務教育を終えることなく働く子どもの多さも深刻で、中学校の卒業率は44%です<sup>\*</sup>。そんな青少年が陥る貧困のサイクルを断つため、ヤンゴン北部・バゴー地方域で「識字」「算数」「生活スキル」からなる「継続教育プログラム」を2017年度から19年度まで3ヵ年計画で行っています。

<sup>\*</sup>UNESCO Global Education Monitoring Report 2019より。

## 3ヵ年の実施計画の2年目を終え、学んだ青少年は960人に

- 継続教育プログラムは、3年間の対象地をバゴー地方域の4地域(バゴー郡タナットピン、タウンジー郡オクトゥイン、ピー郡ポカウン、ピー郡パウンデー)に定め、毎年異なる24の村で9ヵ月間行っています。各村で、学校を中途退学した10~17歳の青少年20人ずつ参加し、2018年度も予定通り480人が学習機会を得ました。
- 「生活スキル」のテーマは多岐にわたり、伝染病やHIV/AIDS、ドラッグ・人身売買などの犯罪、子どもや労働者の人権に関する知識などが取り上げられます。教育の機会に恵まれなかった青少年が、読み書き計算などの基礎的学力に加えて、社会が抱える問題やリスクを正しく知り、適切に行動できることを目指しています。

## 村の皆さんで青少年の学びを支える

24の村では、1村5人程度で組織する「委員会」がつくられ、2018年度は127人が委員になりました。夜道の安全確保や掃除、ときには自費で夜食の差し入れなどを行いました。学習者である青少年たちも各クラスで協力し合い、雨期に洪水被害を受けた道路を補修するといったボランティア活動を行った村もあります。現地の関係者からは、「働くばかりだったころに比べて、継続教育に参加した子どもたちは、態度がとても前向きになった」との声が上がっています。



日中働く学習者のため、授業は主に夜間、薄暗い照明のもとで実施



理解を深めるため、グループワークも多く取り入れられた



田園の広がる中、昼間は自然光で学習

## 学ぶよろこびを、ありがとう!

### ・ 現地の声 ・

各国の寺子屋で学んだ人たちのメッセージをお届けします。



### バン・サーさん(15歳)

家計のため、小学校をやめて2年間キャッサバ畑で働いていた私には、また勉強ができる日が来るなんて想像もできませんでした。寺子屋には、私のような子どもたちのためのクラスがあると知り、生徒として選んでもらったときにはとても幸運だと思いました。クメール語(国語)の授業が気に入っています。支援していただいている方々に、心から感謝しています。

### ビビ・ガルさん(40歳)

年をとると、「何を食べたいか」とか「気分はどうか」などと聞かれることがなくなります。私は学校に行くことができませんでした。家庭がとても保守的で、「女の子は学校に通う必要はなく、家で家事の手伝いをしていなさい」といわれていました。学ぶことは楽しいです。授業中、識字の先生のいっていることがわからなくて、何度も質問をしても、先生は我慢強く答えてくれました。昔は、字の読み書きができるようになるなんて難しいし、ほとんど不可能だと思っていました。でも、いまではそれほど難しくなかったと感じています。

### タシリムン・ニサさん(13歳)

私の家は10人家族で、みんな畠仕事や日雇いで働いています。子どものころ学校に行けなかったので、近所の友だちが皆、通学しているのを見てとても悲しかったです。でも、パタリヤ寺子屋の小学校クラスに入学し、いまでは公立学校に進学することができました。小学校クラスの先生は親切で、授業では英語やネパール語だけでなく、算数や公衆衛生も学びました。英語が好きで、ネパール語と算数は弟や妹に教えられるようになりました。

### カンスゥ温さん(16歳)

学校へは5年生まで通いましたが、家が経済的に苦しかったので、中途退学しました。父、母、3人の妹と暮らしています。いまは、米・豆の大規模農家に働きに行ったり、日雇いで草刈りの仕事などをしています。学校をやめて働くように親からいわれたとき、とても悲しい思いをしましたが、寺子屋のおかげで再び勉強することができて嬉しいです。

## 世界遺産活動

知識と誇りを、つぎの世代へ。



SDGs  
主な対応目標



## クメールの遺跡を次世代へ 子どもたちに誇りと技術をつなぐ

慎重に石像を設置する ©NFUAJ/JST,JASA

### カンボジア（シェムリアップ州）

世界遺産アンコール遺跡群のひとつバイヨン寺院で、  
ナーガ像とシンハ像の彫像修復に加えて、近隣の村から若者を雇用し、  
カンボジア人からカンボジア人へと技術を継承する人材育成を行っています。

※日本国政府アンコール遺跡救済チーム(JASA)の技術協力を得て、アンコール人材養成支援機構(JST)との共同事業



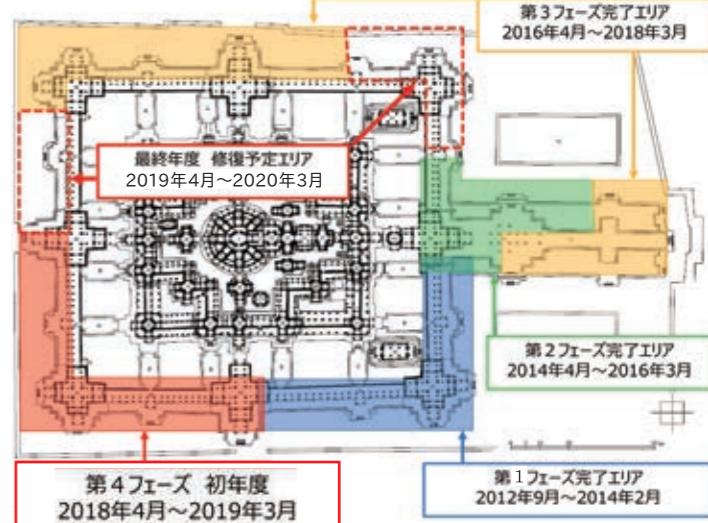
## バイヨン寺院外回廊(第一回廊)の彫像修復プロジェクト 第4フェーズ開始

2018年4月から、第4フェーズ(2018年4月～2020年3月)が始まりました。1年目はバイヨン寺院南西エリアで合計でナーガ彫像26体、シンハ彫像7体、欄干(架木38部材、斗束67部材、地覆61部材)の修復が完了しました。以前フランスが修復した際に使用されていたコンクリートの支柱や鉄のベルトなどを取り除く作業や、不同沈下に伴う彫像・欄干を支える石材の亀裂の接合、頭部など地面に落下していた彫像の接合を行いました。これ一連の修復作業は9名の作業員たちが進めています。

### 修復作業員リーダーから 子どもたちに アンコール遺跡を伝える

2017年度に続いて、カンボジアの子どもたちにアンコール遺跡に親しむ機会を提供しました。寺子屋で行っている復学支援クラス※で、アンコール遺跡にあるモチーフの意味や歴史を学ぶ教材を活用し、5つの寺子屋の87人に授業を行いました。さらにアンコール遺跡を訪問し、学びを深めました。子どもたちは、チア・ノルさん(JST代表)やJASAの専門家から、バイヨン寺院の歴史や、建設方法、チームリーダーのソピックさんから、図面記録、解体、再設置など修復に必要な工程の説明を受けた後、修復現場へ。初めて見る巨大な遺跡に圧倒されながら、スポンジと歯ブラシで、寺院の石の汚れと菌類を落とし、ハンマーで遺跡の石材内部の状態を聞き分け、注射器で補填剤を注入しました。

※小学校から中途退学を余儀なくされた子どもたちを対象にしたクラス



チームの皆でミニクレーンを使用して再設置を行う

### 育まれる遺跡を守る人たちの連帯感

「アンコール」の遺跡群には、さまざまな形でそれらを支える人びとがいます。遺跡の清掃、遺跡の植物の伐採は近隣の人びと(写真の緑色の服)によって行われています。熱帯性気候のカンボジアでは、遺跡の脇や石の隙間から植物が生えています。これらを放っておくと、やがて根を張り、その根が遺跡崩壊の大きな要因となるため、重要な役割なのです。

本プロジェクトでは、修復作業という形で遺跡を護っていますが、清掃チームの仕事の重要性も理解し、感謝をこめて慰労会を開くこともあるそうです。修復の現場では、同じ遺跡を護る者同士の誇りと連帯感が生まれています。



近隣の村人たちも遺跡を守るために作業をしている



### 現地の声

遺跡学習会に参加したタヤック寺子屋に通うヤム・ピッセイさん(14歳)

バイヨン寺院の課外学習会に参加できて、本当に楽しかったです。この課外学習会を通じて、他の寺子屋に通う新しい友だちができたこと、また、歴史や修復作業の方法など、たくさんの新しいことを学ぶことができて嬉しい。また学習会に参加したい！

## ◆ 未来遺産運動

知識と誇りを、つぎの世代へ。

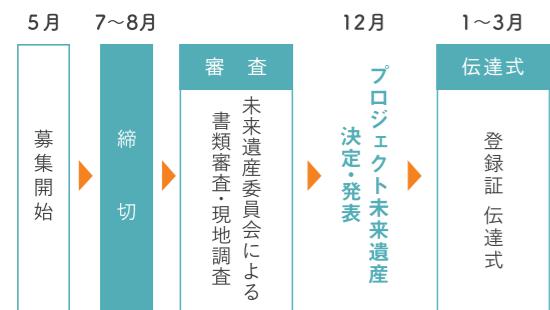


### 日本の豊かな遺産を未来へ バトンをつなぎ継承の輪を広げる

有珠山周辺地域ジオパーク友の会による昭和新山ジオツアー減災文化継承プログラム

地球環境や生活環境の変化により、日本全国にある豊かな自然、文化財や町並み、民俗芸能やお祭りなどが失われつつあります。このような各地のたからものは、地域の人びとによって地道に守り、継承されています。そのような市民による活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、100年後の子どもたちに伝えていくために日本全体で応援します。

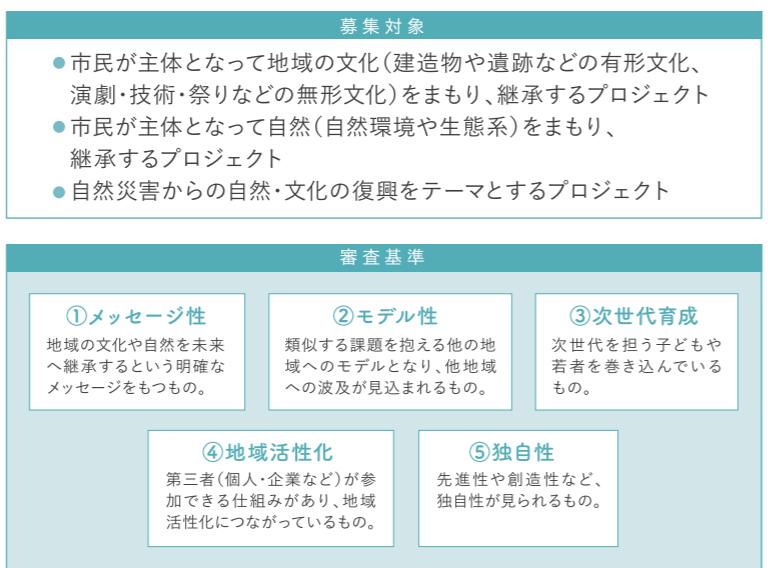
#### 選定プロセス .....



委員長: 西村幸夫(神戸芸術工科大学教授)  
委員: 赤石良治(東日本旅客鉄道株式会社常務取締役)  
齊藤裕嗣(東京文化財研究所 無形文化遺産部客員研究員)  
酒井暁子(横浜国立大学大学院環境情報研究員教授)  
鈴木佑司(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長)  
高橋敏雄(NHK解説委員)  
土屋誠(琉球大学名誉教授)  
西山厚(帝塚山大学文学部文化創造学科教授)  
西山徳明(北海道大学観光学高等研究センター長)  
橋本卓史(住友ゴム工業株式会社CSR推進室室長)  
平尾武史(読売新聞社社会部長)  
矢野和之(株式会社文化財保存計画協会代表取締役)  
鷺谷いづみ(中央大学理工学部人間総理工学科教授)

※2018年12月時点

#### 審査ポイント .....



SDGs  
主な対応目標

## 2018年度登録の「プロジェクト未来遺産」

### 昭和新山ジオツアー 減災文化継承プログラム (北海道:NPO法人 有珠山周辺地域ジオパーク友の会)

活火山である昭和新山は、昭和18年から20年にかけての噴火活動で誕生。団体の代表個人が所有する昭和新山を地域住民の学びの場として提供しています。後の火山学に大きな影響を与えた「ミマツダイヤグラム」と呼ばれる新山生成記録の説明や、地熱を体感するジオツアーを実施し、科学者や行政、企業とも協力しながら防災・減災意識の向上に取り組み、火山との共生文化を次の世代につなぐことを目的としています。(写真は左ページ)



### 気仙沼港と風待ちの風景 ～歴史的建造物の復興プロジェクト～

(宮城県:一般社団法人 気仙沼風待ち復興検討会)

「風待ち地区」は、船出に向いた風を待ったことに由来し、多彩な歴史的建造物が残されていましたが、東日本大震災でそのほとんどが被災。震災以前から歴史的建造物の保存に向けた活動が行われていたことを背景に、被災した6棟の店舗・住居(国登録有形文化財)を再生させ、地域一帯をミュージアムに見立て、「まちなか美術館」の実施や、所有者などが案内を行う「ヘリテージウォーク」など、再生された文化財群を活用した復興まちづくりが進められています。



### 古町花街における伝統文化と 歴史的景観の保全・継承活動

(新潟県:古町花街の会)

花街(かがい)は、芸妓を呼ぶことができる料亭などが集積している都市の一画のこと、日本のおもてなしの伝統文化(舞踊、三味線、和食等)を継承する場所。全国的に花街の歴史的景観やその文化が失われつつある中で、古町花街は有数の花街のひとつです。料亭や置屋などの近代和風建築が残る建造物群の保全とそれらの活用、さらに芸妓育成など伝統文化の継承といった二つの側面をあわせて活動が進められています。



### 「くも合戦」保存プロジェクト

(鹿児島県:姶良市加治木町くも合戦保存会)

全国的に珍しい習俗となっている「くも合戦」(国選択無形民俗文化財)は、メスのコガネグモを棒上で戦わせる伝統的な大会です。地元の教育機関と連携し、子どもたちと行うクモ採集や「出前くも合戦大会」などを通じて次世代への継承に努めています。大会後はクモを元の生息場所へ戻すなど、クモの生態・生息地に配慮しながら、伝統文化の保全・継承と関連させた環境保全活動が同時に進められています。

# 「プロジェクト未来遺産」一覧

2009年から10年。35都道府県で70の  
「プロジェクト未来遺産」が登録されました。

## 中部西

- いきもの不思議の国・中池見湿地（福井県敦賀市）
- 赤瓦と煙出しの里 加賀ひがしたに未来プロジェクト（石川県加賀市）
- 現代の癒し「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」を永遠に語り継ぐために！（富山県中新川郡立山町）
- 伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業（三重県名張市）
- 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ（福井県越前市）
- みんなの手で守り、未来に伝える！日本の原風景『丸山千枚田』（三重県熊野市）
- 愛知万博の理念と成果の継承～海上（かいしょ）の森・保全活用プロジェクト～（愛知県瀬戸市）
- 福野夜高祭 ～「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト～（富山県南砺市）

## 近畿

- 葵プロジェクト（京都府京都市）
- ならまちわらべうたフェスタ（奈良県奈良市）
- 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト（和歌山県海南市）
- 天神崎（てんじんざき）の自然の維持と環境教育の推進（和歌山県田辺市）
- ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法“ドビ流し”的継承（大阪府八尾市）
- いやしの里深野を目指して。希少になったササユリ保護・増殖活動（奈良県宇陀市）
- 銀の馬車道プロジェクト～日本初の高速産業道路を未来につなぐ～（兵庫県姫路市）
- 湖国の原風景権座（ごんざ）水郷を守り育てる活動（日本の里百選）選定地域（滋賀県近江八幡市）
- 京都桂川の生物多様性保全－カヤネズミのすむ茅原を未来へつなぐ（京都府京都市）

## 中国

- 日本の記憶が息づく島OKIを守り伝えるプロジェクト（島根県隠岐郡隠岐の島町）
- このままの鞆（とも）がいい！ 住民の手による歴史的港湾都市「鞆の浦」の歴史・文化・自然の継承と再生（広島県福山市）
- 未来につなごう！尾道・坂の町再生プロジェクト（広島県尾道市）
- 笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動（山口県防府市）
- 英田（あいだ）上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田8300枚～（岡山県美作市）
- まちにあかりを灯すプロジェクト（岡山県倉敷市）
- 椹野川（ふしのがわ）もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト（山口県山口市）
- 萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト（山口県萩市）
- 被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」（広島県広島市）
- 山口鶯流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鶯流狂言～（山口県山口市）

## 九州・沖縄

- 八女（やめ）福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承（福岡県八女市）
- 現代版組踊「肝高の阿麻和利」と「キムタカのマチづくり」（沖縄県うるま市）
- 阿蘇千年の草原を未来へ引き継ごう（熊本県阿蘇市）
- 未来に遺す「生きた鉄道博物館」～100年レイル肥薩線への情熱～（熊本県人吉市）
- 千年の時を刻む莊園村落遺跡「田染荘（たしふのしょう）小崎」（大分県豊後高田市）
- 生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津千潟保全活動（大分県中津市）
- 鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会（ながいわやしゅじょうおにえ）（大分県豊後高田市）
- 博多灣・和白（わじろ）干潟の自然保護活動（福岡県福岡市）
- 肥前浜宿の歴史的まちなみの保存と醸造文化の継承（佐賀県鹿島市）
- 子供と命をつなぐジッキョヌホーのトウギョの里プロジェクト（鹿児島県大島郡知名町）
- 「くも合戦」保存プロジェクト（鹿児島県姶良市）



## 北海道

- 野生サケのふるさとウヨロ川保全調査・普及プロジェクト（北海道白老郡白老町）
- ★未来人（みらいひと）への贈り物★ 宗谷防人物語（そやさきもりものたり）（北海道稚内市）
- 知床のヒグマなど、人間と野生動物とが共生していく大切さを全国に届けよう。（北海道斜里郡斜里町）
- 絶滅危惧種イトウ（サケ科）北海道尻別川個体群の復元活動（北海道虻田郡ニセコ町）
- 昭和新山ジオツアー 減災文化継承プログラム（北海道有珠郡壮瞥町）

## 東北

- 久保川イーハトーブ世界自然再生事業（岩手県一関市）
- 稻生川（いなおいがわ）開削と三本木原（さんほんぎはら）開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に（青森県十和田市）
- 月浜のえんずのわりを未来につなげよう（宮城県東松島市）
- 新津丘陵の自然・森林・歴史遺産の保全・整備プロジェクト（新潟県新潟市）
- 町屋再生プロジェクト 市民基金設立による町屋の外観再生事業（新潟県村上市）
- おらほのながめづくり－『遠野物語』の文化的景観を守る（岩手県遠野市）
- 気仙沼港と風待ちの風景～歴史的建造物の復興プロジェクト～（宮城県気仙沼市）
- 古町花街における伝統文化と歴史的景観の保全・継承活動（新潟県新潟市）

## 関東

- 神楽坂をますます粹に～「粹益（いきまし）」プロジェクト（東京都新宿区）
- 水と林と田んぼのハーモニー 里山がくれた生き物と歴史の玉手箱 宍塚の自然と文化を次世代に（茨城県つくば市）
- 谷中のたから体験・発見・交流プロジェクト 江戸～東京のまちと自然、建物、生活文化の保全活用・体験事業～（東京都台東区）
- 渡良瀬川源流の森再生プロジェクト－足尾銅山の荒廃地に植樹－（栃木県日光市）
- 水戸の歴史資産“偕楽園と弘道館”的魅力を子どもたちに伝える活動（茨城県水戸市）
- 佐野天明（命）鋳物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動（栃木県佐野市）
- 世界で一つだけの「元荒川ムサシトミヨ生息地」保護活動（埼玉県熊谷市）
- 首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子ども達に残す（埼玉県さいたま市）
- 雜司が谷がやがやプロジェクト～歴史と文化のまちづくり（東京都豊島区）
- 玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト（東京都立川市）

## 未来遺産運動10周年記念イベント・事業

2018年は未来遺産運動10周年を記念するフォーラム・シンポジウムが各地で開催されました。

### 全国大会in函館 2018年7月7日(土)

(主催:日本ユネスコ協会連盟 函館ユネスコ協会)

- 未来遺産運動10周年記念フォーラム コーディネーター 神戸芸術工科大学教授・未来遺産委員会委員長 西村幸夫 NPO法人ウヨロ環境トラスト・稚内市歴史・まち研究会が、プロジェクト未来遺産に登録されている活動を紹介しました。



### 「丸の内キッズジャンボリー2018」におけるブース出展

2018年8月14日(火)～16日(木)

(主催:東京国際フォーラム  
共催:読売新聞社)

東京国際フォーラムで行われた子ども向けイベント「丸の内キッズジャンボリー」で未来遺産運動を紹介するブースを出展し、プロジェクト未来遺産に登録された団体の協力のもと、子どもも向けのワークショップを実施しました。



### 未来遺産運動10周年記念シンポジウム「さとやま（里地里山）の生かし方」

2018年7月21日(土)

(主催:久保川イーハトーブ自然再生協議会  
共催:日本ユネスコ協会連盟)

- 基調報告「未来遺産運動の10年」 日本ユネスコ協会連盟事務局 青山由仁子
- 基調講演「さとやまの生物多様性と自然再生」 中央大学理工学部人間総合理工学科教授 鶯谷いづみ その他、主催者の久保川イーハトーブ自然再生協議会をはじめ、プロジェクト未来遺産に登録されている3団体が活動報告を行いました。

### 読売新聞朝刊(全国版)への広告掲載

2019年1月27日(日)

読売新聞朝刊全国版(発行部数:851万2674部)の紙面へ、ジェットスターから協賛を得て、未来遺産運動とプロジェクト未来遺産に登録された70プロジェクトを紹介する広告を掲載しました。

# 東日本大震災 子ども支援募金

## ■ ユネスコ協会就学支援奨学金

# 被災地の子どもたちの 高校進学を支える

東日本大震災で被災し、経済状況が悪化して就学のための支援を必要としている家庭の子どもたちを応援しています。

高校進学を控えた中学3年生を対象に、一人につき月額2万円の返還不要の奨学金を3年間給付しています。

奨学金は、日本ユネスコ協会連盟から奨学生のご家庭に直接給付しています。

2018年は5市町で692名に給付

2018年度は、330名の子どもたちを新規奨学生として採用しました。また、2016年度、2017年度に採用した奨学生には、それぞれ2年目、3年目の奨学金の給付を継続し、あわせて692名の子どもたちに奨学金を届けることができました。

## 【2018年度に支援した地域】

岩手県：陸前高田市、大槌町

宮城県：石巻市、気仙沼市、東松島市

「ユネスコ協会就学支援奨学金」の活動報告の詳細は、別冊「東日本大震災 教育復興支援レポート2018」をご覧ください。



8年間の累計支援数は25市町3286名

2011年から8年間の累計支援人数は、25市町で3286名に上ります。日本各地の皆さんから寄せられた募金によって、たくさんの子どもたちの就学が支えられました。

奨学金は各ご家庭で、子どもたちの高校入学時に必要な制服、カバン、靴、学用品をはじめ、通学費、部活動の用具、修学旅行の費用など、学校生活の中で大切に活用されています。

今後も、子どもたちが被災を理由に夢や進学をあきらめることなく、安心して学校に通えるよう、皆さまの温かいご協力を  
お願いいたします。

■ MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

# 子どもたちの輝く未来のために 高校卒業時までの支援を継続

三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)と協働して  
標記基金を創設。震災により両親もしくはいずれかの  
保護者を亡くした小学校から高等学校までの  
児童生徒を対象とした返還不要の奨学金プログラムです。

奨学生564名中95名が高校を卒業

これまでの累計で1486名に奨学金を給付しました。2019年3月時点で奨学生は564名となり、そのうち95名が高校を卒業し奨学金の給付を終えました。奨学生一人あたり一時金10万円+月額2万円を高校卒業まで給付します。この奨学金事業は長期的な生活と勉学の支援を目的とし、奨学金を返還する必要はありません。最終奨学生が高校を卒業する2025年度まで継続します。

このほか、心豊かな成長プログラムとしてTOMODACHI・MUFG国際交流プログラムを実施、奨学生を含む被災地の中高生20名がロサンゼルスに招待され、現地の生徒たちと交流、異文化理解を深める機会となりました。



吹奏楽部で頑張っています

この度高校を卒業しました。4月から岩手大学の農学部で農業について学んでいきます。  
今までご支援ありがとうございました。

僕は今年で6年生になりました。クラブで副クラブ長になりました。1年生も入ってきたので上級生として頑張りたいと思います。6年生の勉強も頑張ります。

# 奨学生と保護者から 「ありがとう！」

いつもご支援ありがとうございます。娘は大きくなったら医療の道へ進みたいとのことです。本当になれるか分かりませんが夢はしっかりと持って目指していってほしいです。天国にいるパパを忘れず、他人の痛みがわかる優しい人間になってほしいと心から思います。



教員研修会で震災遺構となった石巻市立大川小学校旧校舎を見学

## アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

# 持続可能な社会の創り手を育成 ～子どもたちに災害を生き抜く力を～

被災地の経験や教訓を生かし、全国の減災教育の強化につなげるため、  
小・中・高を対象に、助成金支援、教員研修会、活動報告会を実施するプログラム。  
毎年、応募の中から約20校を選抜し、5年間で38都道府県・104校（再助成校を含む）が参加。  
160名を超える先生方が研修を受講しました。  
助成活動に参加した児童・生徒は2万2000人を超えて、参加した保護者や地域住民を含めて  
約4万人を超える子ども・大人が本プログラムの助成活動に参加しました。  
学校から子どもたちへ、そして地域と連携した減災教育が日本各地に広がり、発展しています。  
本プログラムは、当協会連盟（NGO）、企業、大学、行政、学校、防災NPOなど  
多様なセクターが連携して実施しています。

**サポート① | 助成金**

防災・減災教育に取り組みたいと考える  
小・中・高校を全国公募します。  
審査の上、採用された学校に  
助成金 10万円を支援します。

**サポート② | 教員研修会**

助成校の先生が  
東日本大震災の被災地において、  
大震災の経験や教訓を生かした  
減災教育の実践を現地に学びます。

**サポート③ | 活動報告会**

助成校の先生たちによる  
実践発表やワークショップを通して、  
地域や校種を超えて  
多彩な実践を学び合います。

■ 主催：日本ユネスコ協会連盟

■ 協力：アクサ生命保険株式会社

■ プログラムコーディネーター：及川幸彦先生（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員）

■ 研修協力：気仙沼市教育委員会、気仙沼市立階上（はしかみ）小学校、気仙沼市立階上（はしかみ）中学校、（特活）SEEDS Asia

■ 後援：文部科学省

### ① 教育予算の少ない学校現場に助成金を提供

日本各地でさまざまな自然災害が発生しており、減災教育を見直したいと考える学校が増えているものの、予算がないという学校は少なくありません。そのような現状を受け、予算面から減災教育をサポートするために助成金を提供しています。  
2018年度は応募の中から15道府県20校の学校を選抜して支援しました。

### ② 被災地で学ぶ教員研修会

子どもたちが学校にいる時間は1日のうちわずか6～9時間程度。放課後や夜間、夏休み、進学や就職など、今後災害が発生したときに必ずしも子どもたちは学校管理下にあるとは限りません。  
研修冒頭の基調講演では、学校にいる間に想定した従来の避難訓練を中心とした活動にとどまらず、これからの大震災は、いつどこで遭遇するかわからない自然災害を念頭に、子どもたちの資質や能力を育む「教育」であることを再認識して子どもたちが「災害を生き抜く力を身につけられるよう取り組むべきであると伝えられました。  
2018年度は助成校20校から33名の先生方が参加し、専門家による多様な講演をはじめ、被災地の学校の授業視察や生徒との意見交換、被災校舎（震災遺構）の見学、新学習指導要領、カリキュラムマネジメント、地域連携や外部団体の活用など、これから減災教育を進めるうえで必要な理論と実践を大いに学びました。

### ③ 実践発表と公開フォーラムで学びと交流を深化

活動報告会では、各助成校が被災地での教員研修を活かして、地域ごとの多様な災害リスクを念頭に1年間取り組んできた教育実践を発表しました。茨城県の学校は、研修で訪れた宮城県気仙沼市立階上小・中学校の「防災タイム」の取り組みを導入し、毎週朝の時間を利用した防災学習を始めました。徳島県の学校は、気仙沼市の減災カリキュラム・ガイドブックを参考に、各教科と連動させてさまざまな教科で減災教育を学べるカリキュラム改革を行いました。また、2018年度初の試みとして、公開の「減災教育フォーラム」を開催し、全国から48名が参加。助成校以外の先生も含めてパネルディスカッションや参加型ワークショップを行いました。

減災教育は、1回限りではなく継続することで子どもたちの力を育むことができます。各助成校では減災教育を継続し、子どもたちの命を守るために、これからもさらなる発展に向けて取り組んでいます。



### ～教員研修会にて～



被災した校舎の姿と、犠牲になった児童のご遺族の声から学んだ



気仙沼市の小学校で、中学生や地域住民と連携した防災復興マップづくりの授業を視察



気仙沼市の生徒たちと意見交換

### ～参加者の声～

- ここまで本気度の高い研修は初めてでした。
- 防災教育がなぜ必要なのかを改めて実感しました。
- 百聞は一見にしかず。現場（被災地）に来なければわからないことがたくさんありました。
- 最先端の防災教育の事例を学び、教育の果たす役割を再認識できました。
- これまで知っていた情報とは違い、幅広い視点で減災教育を考えられるようになりました。

## ❖ SDGs達成に向けた次世代育成

未来の担い手が、ここから生まれる。

Think globally, act locally.  
自分たちにできることから行動してみよう

### ユネスコ協会ESDパスポート

ESD(持続可能な開発のための教育)のグローバル・アクション・プログラム(GAP)の一環で、子どもたちのボランティア活動を推進するため、各地ユネスコ協会から学校を通じて子どもたちに「ESDパスポート」を配布。子どもたちが地域社会に貢献した時間数に応じて「活動認定証」を発行します。2018年度は約2万人の児童・生徒が新たにESDパスポートを活用し、地域清掃、募金活動、学習支援、障がい者との交流など、多岐にわたるボランティア活動に参加しました。

#### ESD (Education for Sustainable Development) とは

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のことです。一人ひとりが持続可能な社会の構築に必要な考え方を学び、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分から行動を起こす力を身に付けることを目指します。



ESDパスポート体験発表会のようす

#### 活動認定証を手にした兵庫県の男子高校生の声

ボランティアとして、地域社会、コミュニティに参加し、自分の存在意義を見直すことができた。人と人とのつながり、さらに『ありがとう』の言葉の重みを感じたので、普段から『ありがとう』というように心がけている。いろいろな体験ができてよかった。

新しい発見を生み出す  
「科学者のルール」って何だろう?

### サイエンス・スクール

協力:MSD株式会社

ESDの普及を目的として、小学校高学年を対象に「いのちと健康」をテーマにした出前授業(90分)を実施しています。子どもたちが命や科学への興味を持つきっかけになればと、2011年度から全国78校で実施してきました。

2018年度は全国6校で実施。UNESCOの理念や活動について学んだ後、人体の仕組みや、病気を治療する新しい薬を発見するための科学者のルール、「観察」「予想(仮説)」「証明」の基本プロセスについて、クイズなどを交えながら楽しく学びました。2時間目は軟膏づくりを体験。2019年度からは、デジタルコンテンツを取り入れた授業にリニューアルされます。



命と科学について楽しく学んだ



SDGs  
主な対応目標

グローバルとローカル  
両方の視点で行動できる人づくり

### SDGs高校生フォーラム

協力:公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会／西武信用金庫

平和で持続可能な社会を担う次世代の育成とアジア諸国との友好関係の構築を目的として、2019年3月に3泊4日のプログラムを実施。日中韓3ヵ国の高校生26名が東京に集まりました。「持続可能なまちづくり」「多文化共生」を中心テーマに、基調講演、鼎談、分科会、ワークショップを通してSDGsについてグローバル、ローカル両方の視点で学び、地域の課題解決に向けた行動計画を作成しました。運営にあたり約20名の大学生スタッフも活躍しました。参加高校生は今後、行動計画に沿った地域活動を展開していきます。



思索と交流の得難い4日間となった

ドイツ・フランスの活動事例と各国生徒の多様性に触れた

### 第9回ESD国際交流プログラム

協力:株式会社三菱UFJ銀行

2019年3月23日(土)～29日(金)の7日間、全国のユネスコスクールから選ばれた8人の高校生が、ドイツのハイデルベルクとフランスのパリを訪問。両国のユネスコスクールをはじめ、UNESCO日本政府代表部、三菱UFJ銀行パリ支店およびUNESCO本部を訪問しました。訪問を通じて、他国のSDGs・ESDの活動事例、各国生徒の考え方や多様性に触れるとともに、UNESCO大使、三菱UFJ銀行の行員およびUNESCO職員といった最前線で活躍する人びとから示唆に富んだお話を伺い、今後の活動やキャリア形成の参考になる体験となりました。



ドイツのユネスコスクールで

## 学校におけるSDGs達成を意識した活動を応援します

### ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト(旧名称:ユネスコスクールESDアシストプロジェクト)

協力:株式会社三菱UFJ銀行/株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

ユネスコスクールを対象に、SDGs達成に向けて行われるESDの実践に対して助成を行っています。

2015年に国連で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されたのを受け、2018年度の募集より標記の通り改称しました。

1校あたり10万円を上限に助成し、これまで全国のべ907校の活動を支援しました。

講師招聘のための費用や他校との交流に関わる費用など、ユネスコスクールでの活動を広げるための費用を申請することができ、大変ご好評をいただいています。

2018年度は、102校のユネスコスクールが本助成金を活用し、ESD活動を行いました。

活動内容は環境学習や国際理解、世界遺産・地域遺産学習、平和・人権など、多岐にわたっています。



助成事例1

#### 東京都多摩市立東愛宕中学校(環境学習) 「東愛宕中HONEYプロジェクト」

【対象学年・人数】全学年 172人

養蜂を通じて生物多様性や地球温暖化、食糧の生産と消費の関係について、養蜂家や地域住民と連携しながら学びました。起業体験の場とともに、瓶詰めしたハチミツは地域の行事で頒布しました。

【助成金の使途】養蜂指導者への謝礼、養蜂器具、ハチミツ瓶

子どもたちは本格的に養蜂を体験した



助成事例2

#### 宮城県気仙沼市立唐桑小学校(海洋教育)

#### 「未来につなげよう豊かな海を -カキ養殖体験を中心とした取組-」

【対象学年・人数】全学年 101人

カキやワカメの養殖を中心とした産業と自然について、地域住民の協力を得て体験活動を行い、地域とのつながりや自然環境について学びました。学校での海洋教育の成果発表会では、地域住民に対して発表するとともに、地域の抱える課題についても共有しました。

【助成金の使途】校外学習バス代、カキむき用ナイフ、発表のための模造紙やインク代

大人に教えてもらしながらカキの殻剥きに挑戦



助成事例3

#### 福岡県大牟田市立手鏡小学校(食育)

#### 「大地に生きる手鏡 私たちがつなぐ農業と食文化」

【対象学年・人数】第3~6学年 268人

地域の発展の基になった干拓事業の学習をもとに、地域の産業・文化・暮らしの特色を知るとともに、有明海の海苔づくり体験や、手鏡の食文化「串だご」づくり、児童と地域住民が一緒になって共同農園で野菜づくりを行うなどして、地域とのつながりを大事にしながら食育を行いました。

【助成金の使途】指導者謝金、食育教材など

地元に伝わる「串だご」は自分たちで育てた米からつくった

### 助成校の感想

これまで自分たちの考えた行動の実現が予算などの関係で難しかったが、今回助成を受けたことで、計画の具現化が可能になった。子どもたちは、活動の達成感を味わうことができたと同時に、多くの方々の支えがあって活動できること、また、自分たちの力で環境を保全したり生かしたりできるということを学ぶことができた。

2019年度は、115校に助成が決定しています。この助成金をもとに各地で活動が行われています。

## 絵日記を通じて子どもたち同士の理解を深め、持続可能な地球について考える

### 三菱アジア子ども絵日記フェスタ

共催:三菱広報委員会/アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟

1990年より日本を含むアジア24の国と地域を対象に、アジアの子どもたちの絵日記フェスタを実施しています。

日本の文化である絵日記を通じ、アジアの子どもたち同士の理解を深める国際交流事業であり、

また、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題について学ぶ

「持続可能な開発のための教育=ESD」の事業もあります。

2018年度は7月に第13期の各国・地域のグランプリ受賞者を横浜に招聘し、

国際表彰式やレセプション、横浜市の小学校での交流などにより、受賞者同士や日本の生徒との交流を深めました。

また、絵日記作品の展示会を開催することでも、多彩なアジアの文字や文化に触れることができました。



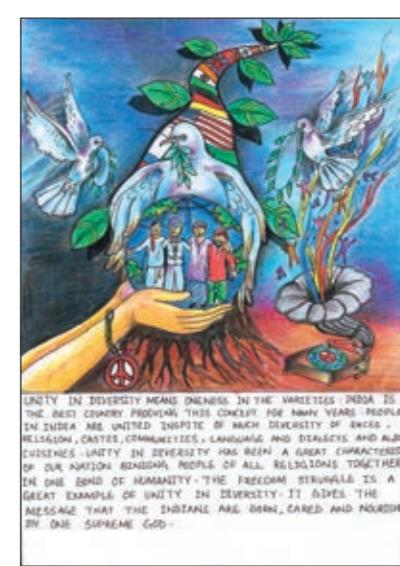
カンボジア・グランプリのピッチャさんの絵日記  
ココナツの殻を使って飲みものが冷めない工夫を祖父母から学ぶ



横浜市立幸ヶ谷小学校での交流会



共同作品「私たちたちの未来」  
来日した子どもたちがみんなと一緒に描いた



インド・グランプリのビュシュくんの絵日記  
人種や階級を超えた多様性の中の統一を考える

## ♦ 民間ユネスコ運動の取り組み

### カザフスタンで 第24回AFUCA執行委員会開催

7月1日(水)、第24回アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)執行委員会がカザフスタンの首都アスタナで開催されました。カザフスタンの地域クラブも含めアジアの8ヵ国から約50人の代表者やメンバーが集結。ジャマイカのユネスコ協会連盟がオブザーバーとして参加。会議では、タジキスタンユネスコクラブ連盟とフィリピンユネスコクラブ連盟の加盟が全会一致で承認され、AFUCAの加盟国は14ヵ国になりました。



アジア8ヵ国から約50人が参加した

### 青少年育成活動

### 次代を担う子どもたちのために

#### 平和の鐘を鳴らそう！



写真提供:磐田ユネスコ協会

毎年、7月19日の「民間ユネスコ運動の日」や夏の時期に、子どもたちや一般市民に平和について考えてもらうきっかけとして、地域の寺院などで鐘を鳴らすとともに、さまざまなイベントを行っています。

#### わたしの町のたからもの絵画展



写真提供:認定NPO法人 市川市ユネスコ協会

地域の文化財や自然の大さに気づき、かけがえない身近な「たからもの」として未来へと引き継ぐ気持ち、ふるさとを愛する心を育てる things to love and care about in our community and nature. ことを願い、「わたしの町のたからもの」をテーマとした絵画作品の募集・展示を行っています。

#### 青少年ユネスコ活動助成



写真提供:名古屋ユネスコ協会

ユネスコ協会・クラブ、およびユネスコ協会所属の青年会員が企画・運営する事業に支援を行っています。2018年度は40の事業が採択され支援を行いました。名古屋ユネスコ協会の「国際理解講座“世界の遊び”」は、子どもたちが他国の遊びや文化を体験することによって、異文化理解に積極的な姿勢を身に付けることを目的として実施されました。

### 研修・交流活動

### 他地域の活動から学び合う

#### 日本ユネスコ運動全国大会



写真提供:函館ユネスコ協会

全国の会員が1年に1回集い、日頃のユネスコ活動の情報交換や大会テーマを中心に研鑽を重ねています。2018年度は、北の大地“函館”で開催し、700名以上の会員・一般市民が参加し盛大なものとなりました。

#### ブロック別ユネスコ活動研究会



写真提供:塩釜ユネスコ協会

全国のユネスコ協会・クラブが9ブロックに分かれて集い、相互研修・研鑽を目的に毎年、研究会を実施しています。地域での活動をより有意義に展開するため、熱心な議論が行われています。



SDGs  
主な対応目標

## 地域ユネスコ協会の取り組み

全国各地で活躍するユネスコ協会・クラブは、UNESCO憲章の理念の普及とともに地域の特性を活かしたさまざまな活動を展開しています。いくつかの個性あふれる取り組みを紹介します。

### 地域と世界をつなぐ

#### 国際理解・国際交流活動

##### グローバルイシュー ワークショップ 大垣ユネスコ協会



写真提供:大垣ユネスコ協会

国際関係の情報や素材を通じて青少年に問題意識を涵養、思考能力を高め、コミュニケーション能力を養成するために実施しています。ワークショップではSDGsを通じ日本と世界の国々のつながりについて英語でディスカッションを行いました。

### 市民とともにSDGsを考える

#### SDGs達成に向けた活動

##### SDGsみらい塾

##### 特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会



写真提供:鎌倉ユネスコ協会

SDGsの17の目標に総論を加えた18テーマを9回に分けて、アクティブラーニングやレクチャー＆ディスカッション方式で学び、消費や子育て、廃棄物など生活に密着したテーマで問題解決について考えました。

### ユネスコ活動への寄付を集める

#### 支援・広報活動

##### コーアクション 飯田ユネスコ協会



写真提供:飯田ユネスコ協会

市内の小中高生を対象に、世界寺子屋運動に関する講義を行った後、街頭募金を実施し、市民への広報活動を行いました。1980年ユ協設立当初から毎年、継続的に実施している活動で、子どもたちにとっての体験学習にもなっています。

## 国内で起きた災害に全国から寄せられた見舞金が教育支援に

2018年7月6日～8日に発生した「平成30年7月豪雨」で、被災状況が深刻だった岡山県、広島県、愛媛県に対する見舞金を募ったところ、全国78のユネスコ協会・クラブ、6個人から、総額296万5350円が集まり、三等分した98万8450円を各県のユネスコ連絡協議会に送金。また、同年9月6日に「北海道胆振東部地震」発生時にも、81のユネスコ協会・クラブ・5個人より総額201万円163円の見舞金が届き、北海道ユネスコ連絡協議会に送金。見舞金は被災した地域にある教育委員会などに全額寄付されました。



### 2018年度 大きなご支援をいただいたユネスコ協会・クラブ

大分県ユネスコ協会連盟、鹿児島ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、松山ユネスコ協会

◆ 構成団体会員（全国ユネスコ協会・クラブ等）(278) 2019年6月15日現在

北海道ブロック	郡山ユネスコ協会	小平ユネスコ協会	高山ユネスコ協会	広島県ユネスコ連絡協議会
北海道ユネスコ連絡協議会	郡山次世代ユネスコ協会	渋谷ユネスコ協会	ユネスコクラブ日本ライン	因島ユネスコ協会
旭川ユネスコ協会	白河ユネスコ協会	新宿ユネスコ協会	豊橋ユネスコ協会	尾道ユネスコ協会
石狩ユネスコ協会	須賀川地方ユネスコ協会	杉並ユネスコ協会	名古屋ユネスコ協会	東広島ユネスコ協会
岩内ユネスコ協会	福島ユネスコ協会	スプリングユネスコクラブ	三重県ユネスコ連絡協議会	広島ユネスコ協会
江差ユネスコ協会	佐渡ユネスコ協会	スポーツと平和を考える	亀山ユネスコ協会	宮島ユネスコ協会
恵庭ユネスコ協会	(一社)新潟市ユネスコ協会	ユネスコクラブ	紀北町ユネスコ協会	山口県ユネスコ連絡協議会
江別ユネスコ協会	関東ブロック	全国の青年連絡組織	菰野ユネスコ協会	山口県青年ユネスコ連絡協議会
小樽ユネスコ協会	栃木県ユネスコ連絡協議会	玉川大学ユネスコクラブ	津ユネスコ協会	岩国ユネスコ協会
帶広ユネスコ協会	足利ユネスコ協会	立川ユネスコ協会	名張ユネスコ協会	宇部ユネスコ協会
北広島ユネスコ協会	大田原ユネスコ協会	千代田ユネスコ協会	松阪ユネスコ協会	下関ユネスコ協会
釧路ユネスコ協会	開倫ユネスコ協会	(特非)しまユネスコ協会	ふくいユネスコ協会	下関ユネスコ協会青年部
俱知安ユネスコ協会	佐野ユネスコ協会	ふるさと東京ユネスコ協会	近畿ブロック	徳山ユネスコ協会
札幌ユネスコ協会	日光ユネスコ協会	(特非)平和の文化	長浜ユネスコ協会	長門ユネスコ協会
知床ユネスコ協会	群馬県ユネスコ連絡協議会	東京ユネスコクラブ	彦根ユネスコ協会	萩ユネスコ協会
千歳ユネスコ協会	安中碓氷ユネスコ協会	舞音の守ユネスコクラブ	京都府ユネスコ連絡協議会	光ユネスコ協会
苫小牧ユネスコ協会	伊勢崎ユネスコ協会	まちだ・さがみユネスコ協会	京都ユネスコ協会	防府ユネスコ協会
名寄ユネスコ協会	大泉ユネスコ協会	学び舎江戸東京ユネスコクラブ	福知山ユネスコ協会	山口ユネスコ協会
函館ユネスコ協会	太田ユネスコ協会	港ユネスコ協会	舞鶴ユネスコ協会	鳥取県ユネスコ連絡協議会
室蘭ユネスコ協会	桐生ユネスコ協会	ミンガラバー・ユネスコクラブ	大阪府ユネスコ連絡協議会	倉吉ユネスコ協会
稚内ユネスコ協会	高崎ユネスコ協会	武蔵野ユネスコ協会	エリーニ・ユネスコ協会	鳥取ユネスコ協会
東北ブロック	館林ユネスコ協会	(特非)目黒ユネスコ協会	(特非)大阪ユネスコ協会	米子ユネスコ協会
(一社)青森県ユネスコ協会	富岡ユネスコ協会	ユネスコ・アルムニ・クラブ	大阪北河内ユネスコ協会	出雲地区ユネスコ協会
秋田県ユネスコ連絡協議会	中之条ユネスコ協会	ICUユネスコクラブ	堺ユネスコ協会	石見地区ユネスコ協会
秋田ユネスコ協会	沼田ユネスコ協会	中部東ブロック	箕面ユネスコ協会	四国ブロック
横手ユネスコ協会	藤岡地方ユネスコ協会	山梨県ユネスコ連絡協議会	奈良県ユネスコ連絡協議会	香川県ユネスコ連絡協議会
岩手県ユネスコ協会連盟	前橋ユネスコ協会	忍野ユネスコ協会	飛鳥・檜原ユネスコ協会	高松ユネスコ協会
一関ユネスコ協会	埼玉県ユネスコ連絡協議会	甲府ユネスコ協会	斑鳩ユネスコ協会	高松ユネスコクラブ
江刺ユネスコ協会	越谷ユネスコ協会	富士川町ユネスコ協会	天理ユネスコ協会	多度津ユネスコ協会
大船渡ユネスコ協会	(特非)さいたまユネスコ協会	山梨市ユネスコ協会	奈良ユネスコ協会	丸亀ユネスコ協会
釜石ユネスコ協会	草加ユネスコ協会	長野県ユネスコ連絡協議会	吉野ユネスコ協会	愛媛県ユネスコ連絡協議会
川崎ユネスコ協会	秩父ユネスコ協会	飯田ユネスコ協会	和歌山県ユネスコ連絡協議会	今治ユネスコ協会
北上ユネスコ協会	蓮田・白岡地方ユネスコ協会	上田ユネスコ協会	岩出ユネスコ協会	大洲ユネスコ協会
久慈ユネスコ協会	深谷地方ユネスコ協会	(特非)木曾ユネスコ協会	貴志川ユネスコ協会	四国中央ユネスコ協会
衣川ユネスコ協会	寄居地方ユネスコ協会	諏訪ユネスコ協会	紀南ユネスコ協会	新居浜ユネスコ協会
浄法寺ユネスコ協会	茨城県ユネスコ連絡協議会	長野ユネスコ協会	紀北ユネスコ協会	北条ユネスコ協会
千厩ユネスコ協会	茨城県西地方ユネスコ協会	(特非)松本ユネスコ協会	新宮ユネスコ協会	松山ユネスコ協会
滝沢ユネスコ協会	北茨城ユネスコ協会	静岡県ユネスコ連絡協議会	那賀・青洲ユネスコ協会	徳島ユネスコ協会
遠野ユネスコ協会	土浦ユネスコ協会	伊豆ユネスコクラブ	橋本ユネスコ協会	九州ブロック
二戸市ユネスコ協会	日立ユネスコ協会	磐田ユネスコ協会	和歌山ユネスコ協会	久留米ユネスコ協会
花巻ユネスコ協会	ひたちなかユネスコ協会	静岡ユネスコ協会	兵庫県ユネスコ連絡協議会	佐賀ユネスコ協会
東山ユネスコ協会	水戸ユネスコ協会	清水ユネスコ協会	相生ユネスコ協会	大分県ユネスコ協会連盟
平泉ユネスコ協会	千葉県ユネスコ連絡協議会	沼津ユネスコ協会	芦屋ユネスコ協会	おおいた草の根
前沢ユネスコ協会	認定NPO法人市川市ユネスコ協会	浜松ユネスコ協会	尼崎ユネスコ協会	ユネスコ協会
水沢ユネスコ協会	浦安市ユネスコ協会	神奈川県ユネスコ連絡協議会	伊丹ユネスコ協会	別府ユネスコ協会
宮古ユネスコ協会	柏ユネスコ協会	厚木ユネスコ協会	川西ユネスコ協会	熊本ユネスコ協会
盛岡ユネスコ協会	香取・佐原ユネスコ協会	(特非)鎌倉ユネスコ協会	神戸ユネスコ協会	高鍋ユネスコ協会
陸前高田ユネスコ協会	木更津ユネスコ協会	横浜ユネスコ協会	三田ユネスコ協会	日南ユネスコ協会
宮城県ユネスコ連絡協議会	千葉ユネスコ協会	中部西ブロック	丹波篠山ユネスコ協会	延岡ユネスコ協会
気仙沼ユネスコ協会	富里ユネスコ協会	富山県ユネスコ連絡協議会	宝塚ユネスコ協会	都城ユネスコ協会
塩釜ユネスコ協会	成田ユネスコ協会	富山ユネスコ協会	西宮ユネスコ協会	鹿児島ユネスコ協会
白石ユネスコ協会	船橋ユネスコ協会	富山ユネスコ協会青年部	姫路ユネスコ協会	徳島ユネスコ協会
(公社)仙台ユネスコ協会	八街ユネスコ協会	南砺ユネスコ協会	三木市ユネスコ協会	沖縄県ユネスコ協会
山形県ユネスコ連絡協議会	四街道市ユネスコ協会	氷見ユネスコ協会	中国ブロック	沖縄でいごユネスコ協会
酒田ユネスコ協会	東京都ユネスコ連絡協議会	石川県ユネスコ協会	岡山県ユネスコ連絡協議会	
鶴岡ユネスコ協会	浅草ユネスコ協会	大垣ユネスコ協会	岡山ユネスコ協会	
福島県ユネスコ連絡協議会	朝日生命ユネスコクラブ	各務原ユネスコ協会	倉敷ユネスコ協会	
会津ユネスコ協会	(特非)維新隊ユネスコクラブ	岐阜県ユネスコ協会	津山ユネスコ協会	
いわきユネスコ協会	大田ユネスコ協会	岐阜長良川ユネスコ協会		

・維持会員企業・団体／賛助団体会員（2019年6月15日現在 五十音順・敬称略）

## ● 維持會員企業・団体(131)

株式会社IHI／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／旭化成株式会社／朝日生命保険相互会社／朝日不動産管理株式会社／朝日ライフ アセットマネジメント株式会社／株式会社ADEKA／株式会社アドバンテスト／株式会社ECC／株式会社インフォテクノ／朝日／株式会社ウィザス／ANAホールディングス株式会社／株式会社エスジー／SPC GLOBAL／株式会社NTTドコモ／NTTファイナンス株式会社／株式会社NTTファシリティーズ／エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社／エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社／株式会社エヌ・ティ・ティ・データ／エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社／株式会社オーシーエス／株式会社大塚商会 城西営業部 渋谷支店／株式会社岡三証券グループ／沖縄ツーリスト株式会社／特定非営利活動法人音楽は平和を運ぶ／株式会社オンワード樫山／花王株式会社／関東電化工業株式会社／株式会社かんぽ生命保険／北日本ビル管理株式会社／株式会社紀伊國屋書店／キヤノン株式会社／共同印刷株式会社／株式会社協和エクシオ／協和発酵キリン株式会社／株式会社クオリアート／黒田精工株式会社／株式会社クラウン・クリエイティブ／株式会社クラウン・パッケージ／株式会社クレスコ／株式会社クレディセゾン／京王電鉄株式会社／株式会社講談社／株式会社幸美グラフィス／国際警備保障株式会社／サービス・ツーリズム産業労働組合連合会／三幸株式会社／株式会社シーイーシー／JTBグループ労働組合連合会／ジェットスター・ジャパン株式会社／株式会社四国銀行／株式会社資生堂／株式会社ショウエイ／学校法人尚志学園／昭和シェル石油株式会社／株式会社白橋／新光電気工業株式会社／西武信用金庫／清和綜合建物株式会社／株式会社セーフティ／株式会社セブン＆アイ・ホールディングス／全国税理士共栄会／中部日本放送株式会社／株式会社千代田組／DIC株式会社／株式会社デイリースポーツ案内広告社／株式会社テレビ朝日ホールディングス／株式会社電通／株式会社電通テック／東京海上日動火災保険株式会社／東京書籍株式会社／株式会社東京ドーム／東武鉄道株式会社／東洋埠頭株式会社／株式会社東横イン／トップ・フォームズ株式会社／西日本電信電話株式会社／株式会社日税ビジネスサービス／ニチモウ株式会社／日通商事株式会社／日本化薬株式会社／日本空港ビルディング株式会社／日本軽金属株式会社／日本ゼオン株式会社／日本通運株式会社／日本電信電話株式会社／日本土地建物株式会社／日本農業株式会社／日本ピストンリング株式会社／日本放送協会／日本メディカルシステム株式会社／野村ホールディングス株式会社／株式会社パウコミュニケーションズ／パナソニック株式会社／株式会社PFU／光写真印刷株式会社／東日本電信電話株式会社／東日本旅客鉄道株式会社／株式会社日立製作所／株式会社ビデオプロモーション／ひとしづく株式会社／株式会社フェドラー／富士オフィス＆ライフサービス株式会社／富士急行株式会社／富士通株式会社／株式会社富士通エフサス／株式会社富士通ゼネラル／株式会社フジテレビジョン／古河機械金属株式会社／古河電気工業株式会社／株式会社ブロードリンク／株式会社プロジェクトパーク／マイスター会計事務所／株式会社ミロク情報サービス／三井住友カード株式会社／ミツイワ株式会社／三菱地所株式会社／三菱重工業株式会社／三菱商事株式会社／株式会社ミライト／株式会社ムクダ／メッドサポートシステムズ株式会社／モリリン株式会社／株式会社ヤクルト本社／山崎製パン株式会社／横浜ゴム株式会社／レイ法律事務所／株式会社レインボージャパン

### ● 賛助団体会員(19)

ICOM日本委員会／OME日本委員会／特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会／国際美術連盟日本委員会／一般社団法人国立大学協会／特定非営利活動法人としまNPO推進協議会／一般財団法人日本エスペラント協会／公益社団法人日本空手協会／協同組合日本脚本家連盟／一般社団法人日本国際児童図書評議会／NPO法人 日本国際文化遺産協会／公益社団法人日本造園学会／公益社団法人日本図書館協会／一般社団法人日本の節句文化を継承する会／一般社団法人日本の伝統を守る会／公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会／一般社団法人日本文化交流基金／公益財団法人野村生涯教育センター／三重大学ユネスコスクール委員会

### 会員加入のお願い

## ● 維持會員 .....

この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に貢献し得る団体。会費は年額一口12万円。

## ● 賛助団体会員

この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に寄与する教育、科学、文化その他の団体。会費は年額2万円。

## ● 個人会員 .....

ユネスコ活動にとくに貢献し得る個人。  
会費は年額一口1万2000円。

## ● 構成団体会員 ....

ユネスコ憲章の精神に則り、民間ユネスコ活動を推進するために設立されたユネスコ協会・ユネスコクラブ、都道府県ユネスコ連絡協議会及び全国的青年連絡組織。会費は構成団体下の加入会員ごとに年額1000円。

株式会社電通



社会貢献部の取り組みの一環として、書きそんじハガキ・キャンペーンの応援キャラクターの考案、チラシ、ポスターなどのデザインをはじめ、PR動画の制作及び撮影協力、広報媒体への掲載など、世界寺子屋運動の広報活動に協力。電通グループ社員による書きそんじハガキ回収は、企業では5年連続でナンバー1となっています。

株式会社NTTドコモ



長年にわたり、維持会員として当協会連盟の組織・活動を支えてくださっています。また、東日本大震災の支援では、被災地を継続的に支援するための「東北応援社員募金」制度を設け、賛同した社員の方々から毎月311円を募金として集める取り組みを2012年以降継続して行い、2018年度はドコモグループ全体で約8200人の社員有志の皆さまが参加されています。この社員募金とグループ各社からのマッチングギフト（社員の寄付に対して、同額を会社も寄付する制度）を通じて集められた募金の一部を、東日本大震災子ども支援募金（ユネスコ協会就学支援奨学金）にご協力いただいています。

## 2018年度も、多くの企業・団体に、さまざまな形でご支援いただきました。

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章に基づき、志を同じくする人びとや団体と連携し、70年以上にわたり

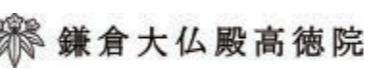
国内外で活動を続けています。2018年度にご協力いただいた企業・団体の一部をご紹介します。



アクサ生命



三菱広報委員会



### プロジェクトによる支援



アクサ生命保険  
株式会社



住友ゴム工業  
株式会社  
(ダンロップ)

「みらいを作ろう」をテーマに、復興支援寄付キャンペーンに取り組まれています。同キャンペーンを通じて東日本大震災子ども支援募金(P21)と減災教育プログラム(P23~24)に協力し、震災の記録を風化させることなく、経験や教訓を今後に活かし、地域社会の未来をつくる取り組みを継続してくださっています。

「未来遺産運動」の趣旨に賛同し、日本全国のさまざまな環境保護活動に取り組みたいと、2013年より「チームエナセーブ 未来プロジェクト」を開始。2018年度は全国8ヵ所(計画は全9ヵ所で、うち1ヵ所は雨天により中止)の「プロジェクト未来遺産」登録地で、社員による環境保護活動を実施しました。

### ご寄付による支援



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

同社のweb約款に賛同して選択されたお客さまの数に応じて、会社が寄付金を拠出する取り組みと、役職員一人ひとりが気軽に参加できる任意の社員募金制度「MS&ADゆにぞんスマイルクラブ」を通じてご寄付いただいている。また長年、維持会員としてもユネスコ活動を支えてくださっています。



旭酒造株式会社

純米大吟醸「獺祭磨き二割三分」の売り上げを通じたご寄付を続けていただいている。おいしいお酒・楽しむお酒を造ることによって、その利益の一部を社会に還元する。企業の生業をもって社会に貢献する取り組みでご協力いただいている。



MUFG  
三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFG  
三菱UFJ銀行

MUFG  
三菱UFJニコス



公益財団法人  
かめのり財団

2014年より、毎年約10名の高校生がカンボジアを訪問するスタディツアーをご支援いただいている。2018年は、プノンペンで日本国大使館やUNESCO事務所、戦争の記憶を伝えるツールスレン博物館やキリングフィールドなどを訪問するとともに、シェムリアップで日本ユネスコ協会連盟が展開している世界寺子屋運動、世界遺産活動の現場を視察するプログラムを実施し、グローバルな視点で活動する青少年育成に寄与しています。



三菱UFJ  
フィナンシャル・  
グループ(MUFG)

「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」(p22)、「守ろう地球のたからもの」事業、ユネスコスクール支援、「ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」「ESD国際交流プログラム」(p26~27)にご協力いただいている。「守ろう地球のたからもの」事業では、2008年より白山神社周辺地域で約10万本の植樹にご協力いただき、11年たったいまも毎年、社員がボランティア参加し、植えた木を育てる「育樹」活動を継続してご協力いただいている。



三菱UFJニコス  
株式会社

クレジットカードを利用されたお客さまのお申し出によるご利用明細書のWEB化により削減された費用の一部を未来遺産運動へ寄付する取り組みや、会員さまからのポイントプログラムによるご支援をいただいている。また社員の給与天引きによる募金と会社拠出による寄付を通じて、東日本大震災子ども支援募金にご協力いただいている。



“世界寺子屋運動”  
名古屋実行委員会

ユネスコ世界寺子屋運動を開始した1990年より、名古屋国際センターが中心となって毎年、市民への普及啓発活動を行なながら、世界寺子屋運動を支える書きそんじハガキの回収に大きなご協力をいただいている。

## ◆ サポーターの声

民間ユネスコ活動は、趣旨にご賛同いただいた多くの方々に支えられています。  
さまざまな分野から支援してくださる方々の、あたたかいメッセージをご紹介します。

### ジャーナリスト 池上 彰さん



子どもは社会の宝です。子どもたちが、さまざまな事情で学びを中断せざるを得なくなるなど、あってはならないこと。それは子どもたちにとって辛いことであるとともに、社会にとっても悲しいことです。東日本大震災後、私にできることは何かと考え、現地に行ったり資金援助をしたりしてきました。そのひとつとして「子ども募金」の存在を知り、ささやかながら協力してきました。次の世代を担う子どもたちが健やかに成長することを願っています。

### 歌手

### 倉木麻衣さん



今年も私なりに協力できることをと思い、カンボジアの寺子屋で学んだ女性たちがつくり上げたホティアオイのカゴバッグと、フォトフレームを販売させていただいています。  
皆さん、温かなご支援ご協力ありがとうございます。  
また、カンボジアの皆さんと子どもたちの笑顔に会いにいきたいです。ますます皆さんの笑顔が増えるように、引き続き活動を続けていきたいと思っています。

### ICOM日本委員会 委員長、 元文化庁長官

### 青木 保さん



民間ユネスコ運動は文化、伝統、社会といった幅広い問題に深い理解を持つユニークな取り組みをされています。さらに全国に約280もの地域の協会・クラブを持ち、多くの会員の皆さんに活動を支えられているという点でも他に類を見ません。皆さまの活動がますます活発になり、次の世代にバトンをつなぐため、大きく貢献していくことを心から願っております。

### ユネスコ世界寺子屋運動 広報特使

### 久保純子さん



世界寺子屋運動と出会って、気がつけば10年という月日が経っていました。先日、久々にカンボジアを訪れ、当時、お母さんに抱っこされていた女の子と再会しました。15歳になり、しっかりと勉強し、夢に向かって歩んでいる姿は頼もしい限りでした。時間はかかるかもしれないけれど、着実に「学びの輪」が広がっていることを実感しました。国連のSDGsが掲げる「質の高い教育をみんなに」という目標が確実に達成されるためにも、できることを一つひとつ積み上げていきたいと思います。

### ヴァイオリニスト UNESCO 平和芸術家

### 二村英仁さん



それぞれの「価値観」の相違が人びとを対立させ争いの火種となっています。その溝を埋める手立てが「寛容」であるとUNESCOは説いていますが、それを実践するためにはしっかりと「教育」を受けなくてはその領域に達することはできません。常に教育に重点を置かれ、教育環境に恵まれない国々の子どもたちに手を差し伸べてこられた日本ユネスコ協会連盟の活動に心より賛同し、これからも音楽を通じて協力させていただきたいと願っています。

### 特別大使犬 わさお



### 日本ユネスコ協会連盟 “ワン”バサダー わさお

僕の暮らす青森県鰯ヶ沢町は、世界自然遺産である白神山地のお膝元です。世界遺産の地に生きてることで、世界とつながっていると感じられるし、豊かな自然を守っていく平和でいいなあと思います。たくさんの人たちが、平和な世界を思い描けるように、平和の輪がもっともっと広がっていくように、これからもユネスコ活動を応援するんだパウッ!

## 力士会からのメッセージ/



### 「あいづ相撲場」が完成しました

東日本大震災当時、力士会の会長だった横綱・白鵬関(UNESCOスポーツチャンピオン)の呼びかけで、力士会所属の力士が寄付をして、被災地に相撲場をつくる復興支援活動が始まりました。岩手県山田町、宮城県気仙沼市に続き、2018年6月には福島県会津若松市に新しい相撲場が完成。この「あいづ相撲場」の完成を祝し、力士会の現会長である横綱・鶴竜関も駆けつけ、盛大な土俵開きの式典が行われました。土俵開きの後は、全会津中体連の相撲競技大会が開催され、約100名の中学生力士、保護者、地域住民など大勢の方々が参加しました。この相撲場が今後の会津地域の発展に少しでも役立つことを願います。

## 個人会員からのメッセージ/



### 個人会員同士がつながり、 協力の輪を広げています

### 炭谷宇紀子さん(個人会員世話人会代表)

個人会員の有志が定期的に集まり、勉強会や懇親会を開催しています。音楽や食文化、他国の歴史や伝統を学ぶことで視野を広げると同時に、ユネスコ活動の賛同者、協力者を増やしていくためのチャリティパーティーや寺子屋製品の販売なども実施しています。会員間の相互理解と親睦を育みつつ、これからも会員の輪を広げていきたいと思います。

## 高校生スタディツアー参加者の声/



### 第5回高校生カンボジア・スタディツアー参加者 協力:公益財団法人かめのり財団

### 濱中大貴さん(奈良女子大学附属中等教育学校)

私は事前学習でカンボジアの農村部の厳しい生活実態を知りました。実際ルエル村を訪問し、私たちにとって当たり前にあるインフラが未整備な状況など驚くこともあります。しかし、訪問先の人びとは常に笑顔で接してくださいり、とてもあたたかい気持ちを感じました。本当の意味での豊かさとは何か、考えるきっかけになりました。



### 第9回ESD国際交流プログラム ドイツ・フランス・スタディツアー参加者 協力:三菱UFJ銀行

### 鬼頭英人さん(名古屋国際高校)

今回のツアーは貴重な経験ばかりでした。遠いヨーロッパの地で初めて出会った方全員が、平和のとりでを築くために活動する仲間でした。世界中の仲間の存在を実感し、こうして素晴らしい機会を与えていただいた者の責任として、学んだこと、感じたことを積極的に発信し、活動していきたいと思います。

# Message

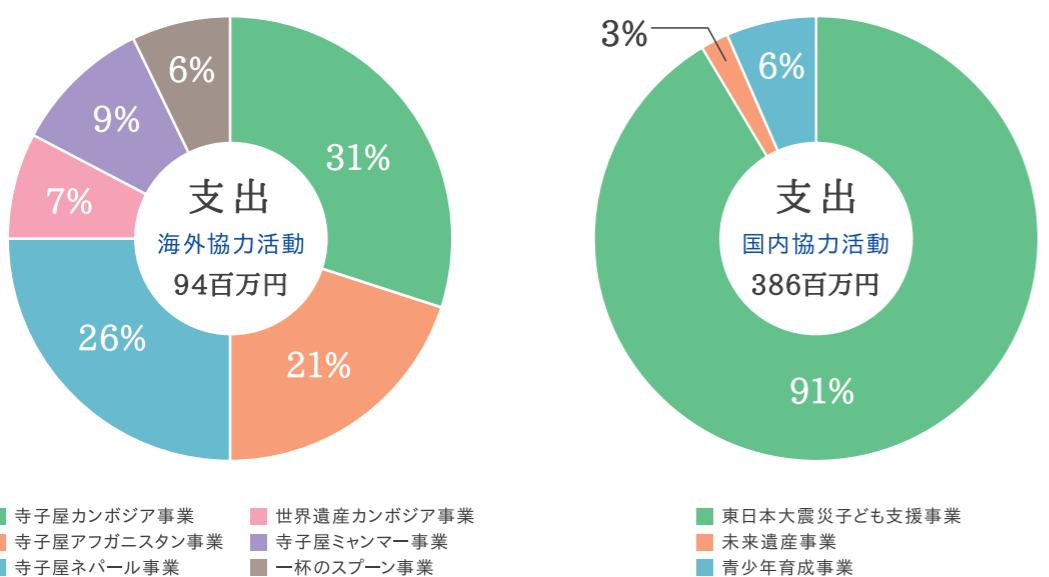
### 2018年度 正味財産増減計算書(要約版) ————— 2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	金 額
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
① 経常増減の部	
① 経常収益	
基本財産運用益	1,074
特定資産運用益	6,069
受取会費	39,324
事業収益	22,817
受取補助金等	4,500
受取寄付金	678,016
雑収益	8,231
経常収益計	760,033
② 経常費用	
事業費	637,441
管理費	28,239
経常費用計	665,681
評価損益等調整前当期経常増減額	94,352
評価損益等計	6,916
当期経常増減額	101,268
<b>2. 経常外増減の部</b>	
① 経常外収益	
経常外収益計	0
② 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	101,268
一般正味財産期首残高	542,714
一般正味財産期末残高	643,983
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
受取寄付金	306,945
一般正味財産への振替額	△508,915
当期指定正味財産増減額	△201,969
指定正味財産期首残高	2,022,837
指定正味財産期末残高	1,820,867
<b>III 正味財産期末残高</b>	
	2,464,850

注：記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 2018年度 事業費支出の割合



## ◆ ユネスコ活動への参加・協力方法

### 各地域のユネスコ活動に参加する！

近隣のユネスコ協会が行うさまざまな活動にボランティアで参加することができます。会員になることも可能です。連絡先については、31ページのユネスコ協会一覧をご覧になり、HPなどで検索をお願いします。

### 活動報告会・イベントに参加する！

毎年9月8日の国際識字デー前後や現地スタッフの来日時に、活動報告会やイベントを開催しています。開催予定については、日本ユネスコ協会連盟のホームページやメルマガ、Facebookでご確認ください。

### 寄付で応援する！

#### ■ 月1いいことプログラム

毎月自動振替で一定額(ひと月1000円から)を、ご指定の金融機関・郵便口座、またはクレジットカードからのお引き落としてご協力いただけます。



#### ■ インターネット募金

ホームページから、クレジットカード決済によるご寄付を受け付けています。



[www.unesco.or.jp](http://www.unesco.or.jp)

#### ■ 郵便局からの振込募金

郵便局で「手数料免除口座」とお伝えいただくと、振り込み手数料が無料になります。

口座番号 00190-4-84705

口座名義

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

#### ■ 遺贈によるご寄付

遺言によって財産の一部またはすべてをご寄付いただけます。  
お問い合わせ先：日本ユネスコ協会連盟 遺贈担当(03-5424-1121)

#### ■ 書きそんじハガキ・タンス遺産のご寄付

住所を書き間違えるなどの理由で、投函されていない未使用ハガキや切手、金券、株主優待券をお送りください。  
書きそんじハガキ1枚(62円ハガキが57円相当に)11枚で、カンボジアでは一人がひと月学ぶことができます。

#### ■ ANAマイレージ寄付

ANAマイレージクラブ会員を対象にマイルによる寄付を募っています。  
受け付け期間等、詳しくはANAホームページのマイレージ寄付ページへ。  
<https://www.ana.co.jp/ja/jp/amc/reference/tukau/donation/>



#### ■ ポイント寄付・その他の協力方法

お持ちのポイントカードやクレジットカードのポイントなどを募りたいだけです。

アプラスとおきプレゼント(ポイントサービス)、永久不滅ポイント(そごう・西武:クレディセゾン)、Oki Dokiポイントプログラム(JCB)、JRE POINT(JR東日本)、hontoポイント(2Dfacto)、Tポイント(Tポイント・ジャパン)、ネットマイル、プラメド・ポイントクラブ、ブルーチップ、ペネフィットステーション・ポイント、ペルマーカ(友愛事業への寄付)、三菱UFJニコス・ポイントプログラム、WORLD PRESENT(三井住友VISAカード)、わくわくポイント/ワンダフルプレゼント21(セディナ)など

### メルマガ・Facebookの情報をシェアする！

メルマガ登録 → 「ユネスコ 登録フォーム」で検索！  
新メールマガジン登録サイト  
(<https://unesco.or.jp/m>) からご登録ください。



Facebook → 「日本ユネスコ協会連盟」で検索！  
<https://www.facebook.com/unesco.or.jp>



### 事務局スタッフより

日本ユネスコ協会連盟事務局では、20名のスタッフで日々のさまざまな業務を行っています。事務作業や制作作業をお手伝いくださいる学生インターンやボランティア、アシスタントの皆さんにも大きく助けられています。「きょういくで、あしたへいく。」をモットーに、一人ひとりの力を集結させて、これからもがんばってまいります。

「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」をビジョンに、  
「平和な世界の構築」と「持続可能な社会の推進」をミッションに掲げ、さまざまな活動を展開しています。

### UNESCO憲章前文より(抜粋)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、  
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となつた。

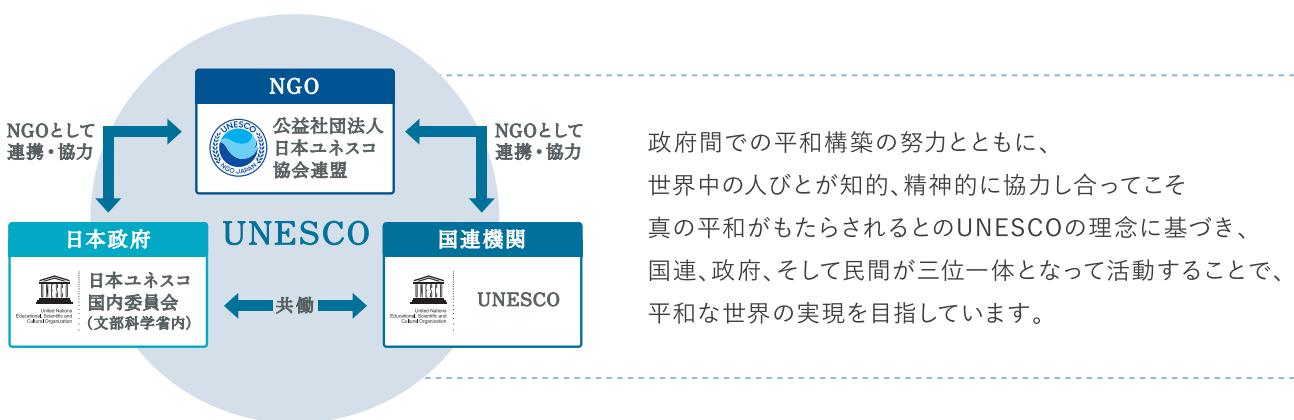
ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならない神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取組のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

### 私たちのミッション

私たちは、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)の理念に賛同し、国際的な視野で身近な活動を通じて  
平和の礎と持続可能な社会を築くことを目指すNGOとして活動しています。



日本ユネスコ協会連盟は、  
平和で公正な社会、自立した人生をつくるのは「教育」だと考えます。  
教育が、人びとの心の中に平和のとりでをつくる。貧困の連鎖を断ち切る力になる。  
文化や自然を尊ぶ心を育てる。そして明日を生きる希望と力になる。

きょういくで、あしたへいく。

